様式2

# 令和元年度（平成31年度）　自 己 評 価 表

鳥取県立八頭高等学校

| | |
|---|---|
| **中期目標（学校ビジョン）** | 1　主体的に学び、自分の言葉で表現できる生徒を育成する。<br>2　チームで取り組む経験を通し、互いの多様性を知るとともに自己有用感を高める。<br>3　地域連携の主体となり、地域に根差した学校としての役割を果たす。 |

**今年度の重点目標**

1. 授業に集中　①高校生活や授業におけるルールやマナーの徹底　②生徒の自宅学習時間の確保　③AL9の視点による公開授業等の実施
2. 行事で団結・部活は熱中　①地域から信頼される学校づくり　②生徒の悩みへの的確な対応　③学習との両立を意識した計画的・効率的な部活動運営
3. 進路に挑戦　《探究》地元大学との積極的な連携、高い志望に挑戦　《総合》多様な進路に対応、第一志望を目指す　《体育》全国を目指す、基礎学力を確実に育成
　①進路実現に向けて努力している生徒の割合の増加　②国公立大合格者数の増加
4. 学校業務改善の取組を進め、生徒への学習・生活・進路指導等の充実を図る

| 年度当初 | | | | | 評価結果（10）月 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価項目 | 評価の具体項目 | 現状（平成30年度実績等） | 目標（年度末の目指す姿） | 目標達成のための方策 | 経過・達成状況 | 評価 | 改善方策 |
| 授業に集中 | 高校生活や授業におけるルールやマナーの徹底 | 98%の生徒が学校で定められたルールやマナーを守るよう心がけ（保護者97%、職員97%）、91%の生徒が授業の予鈴で着席する等、授業時間を大切にしている（職員95%）。 | ・ルールやマナーを守るよう心がけている生徒の割合(95%以上)【学校評価アンケート】<br>・スマートフォンの利用について、ルールやマナーの徹底を図る。 | ・挨拶の重要性やマナーの遵守について粘り強い指導を行い、様々な機会を捉えて保護者の理解を図るとともに、生徒に対しては「伝わる」指導を行う。<br>・学校評価アンケートの結果を分析し、教育活動の改善に生かす。<br>・生徒保健委員会メディア調査を通年実施し、保護者との連携を図りながらルールづくりを進めるなどしてスマートフォンの長時間利用者の指導を継続する。 | ・生徒保健委員によるメディア調査を通じたスマートフォンの使用に関わる啓発活動を持続的に行っており、成果が現れつつある。<br>・運動部活動に所属している生徒を中心に、校内で挨拶をする生徒が多数いる。<br>・登下校時のマナー等に関する外部からの苦情は9月以降は入っていない。 | C | ・生徒保健委員によるメディア利用に関する啓発活動は引き続き実施する。職員による指導、生徒による活動を続けていくことで、ルールを守る意識を高めていく。<br>・登下校時のマナー等については、毎月1回程度啓発・注意喚起を行っているので、これを継続し、地域の方から評価していただけるような生徒の育成に努めていく。 |
| | 生徒の自宅学習時間の確保 | 1日当たりの自宅学習時間平均（11月）は、1年82分、2年64分、3年174分であり、1年2時間以上21%、2年3時間以上2%、3年4時間以上35%である。コース別・学年別の自宅学習時間は体育コース（1年32分、2年19分、3年30分）、1年探究・総合コース90分　、総合コース（2年63分、3年156分）、探究コース（2年89分、3年308分）である。 | ・生徒の自宅学習時間(1,2,3年別の時間(分))(それぞれ1、2年90分、3年200分以上)【自宅学習時間調査】<br>・クラス担任と教科担任、部顧問等が連携し、生徒の自宅学習時間の確保に努める。 | ・クラス担任が個別面談で自学、自習の状況についてフィードバックを行うだけでなく、教科担任も適宜面談を実施するなどして、学習進捗状況を確かめたり、効果的な学習指導となるよう留意する。 | ・4月の自宅学習時間調査では、1日当たりの学習時間の学年平均が1年88分、2年73分、3年87分であり、1日2時間以上学習している割合が1年25%、2年16%、1日3時間以上学習している割合が3年9%であった（1週間の平均）。<br>・7月の授業評価アンケートによると、1日2時間以上学習している割合は1年が平日12%、休日44%、2年が平日11%、休日40%、3年で3時間以上学習している割合は平日11%、休日28%であった。3年の学習時間は増加しているが、1・2年は減少傾向である。 | C | ・クラス担任が学習時間の少ない生徒を把握し、教科担任、部顧問とも連携して個別面談を行い、継続して指導する。 |
| | AL9の視点による公開授業等の実施 | 7教科（9名）において研究・公開授業を実施した。 | ・AL9の視点をもって、全教科で公開授業等を実施する。【実施教科数】<br>・ALの推進及び高大接続改革への対応に学校をあげて取組む。 | ・授業では相手（生徒同士・教員同士・生徒教員相互）に敬意を払うとともに、ICT機器等も効果的に活用し、①外部への表現活動（思考して解く、他人に教える、理解しながら読む、振り返りながら書く、意見や考えを述べる等のアウトプットを含む活動）<br>②AL9の視点による公開・研究授業を全教科で実施する。<br>・ALの推進及び高大接続改革に対応するために、県内外各種研修会に積極的に参加し、校内の教育活動に還元する。 | ・10月末現在、8教科（11名）が研究・公開授業を実施した。AL9の視点をもち、ICTを活用した授業が行われた。<br>・ICT利活用に関する研修会参加や学校訪問を行い、その内容を職員会議で報告して情報を共有した。 | B | ・11月にはアクティブラーニング授業研修会を開催し、ICTを効果的に活用した示範授業をもとに研究協議を実施する。<br>・今後も研究・公開授業を積極的に実施し、教員相互に研修を行っていく。 |
| | （注）外部への表現活動や生徒主体の学習等を授業時間の2割(＝9分）以上取り入れることを「AL9」と呼ぶ。（以下同様） | | | | | | |
| 行事で団結・部活は熱中 | 地域から信頼される学校づくり | 「八頭高愛し愛され運動」の参加者は第1回（6月）170名、第2回（11月）240名であり、全校生徒の半数を超えた。 | ・「八頭高愛し愛され運動」への参加者の割合(%)(全校生徒の55%以上)【2回の運動参加者数の合計】<br>・地域課題について理解し、その解決に向けて取組む生徒を育成する。 | ・八頭高愛し愛され運動、中学生体験入学、翠陵祭、八頭高ライフ体験等の諸行事や学校生活等の様々な場面において生徒が主体となって企画・実施に取組むとともに、その手法を下級生に引き継ぐことができるよう指導を行う。<br>・地域課題解決の一助となるアイデアを積極的に出させる等して八頭高生としてのアイデンティティーを育む。 | ・第1回愛し愛され運動（6月）は、開始後7年目になる今年、第1回としては過去最高の296名（全校生徒の約37%）の参加者となり、学校全体の取組として広がりが見られてきた。また、生徒会執行部員による被災地訪問では、陸前高田市を訪問し、地域ネットワークの在り方について研修した。<br>・地域貢献活動には昨年と同様、書道部・吹奏楽部・華道部等が精力的に活動した。また、生徒会執行部員も今年度介護老人福祉施設に出向きボランティア活動を行った。 | B | ・第2回愛し愛され運動（11月）も先ずは多くの生徒が参加をしやすい環境作りを整えていく。<br>・清掃活動のみならず、被災地訪問で学んだ「地域のニーズ」を得て活動につなげていくことが出来ていない。地域に出向き情報を得る行動が必要である。 |
| | 生徒の悩みへの的確な対応 | 80%の生徒（保護者74%、職員92%）は、八頭高は心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると回答する生徒・保護者の割合(生徒85%以上、保護者75%以上）【学校評価アンケート】<br>・生徒の悩みに的確に対応するため、教職員間の連携を図る。 | ・八頭高は生徒の心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると回答する生徒・保護者の割合(生徒85%以上、保護者75%以上）【学校評価アンケート】<br>・生徒の悩みに的確に対応するため、教職員間の連携を図る。 | ・日々の生徒観察やhyper－QUの分析・検討会、個別面談、教育相談・特別支援委員会、教育相談係・保健係連絡会、人権教育LHR等をとおして生徒の悩みを把握するとともに、教職員同士が連携して生徒が安心して充実した学校生活を送れるよう指導・支援する。 | ・昨年度同様、9月末時点までに「いじめアンケート」「Hyper-QU調査」をそれぞれ2回ずつ実施し、悩みを抱えている生徒についての情報共有を行うとともに、クラス担任、学年団、教育相談係を中心に、該当生徒のケア、あるいは、見守り（観察）を行っている。<br>・要支援生徒についての情報共有を定期的に行い、クラス担任、学年団、教育相談係に加えて、各教科担任も生徒の状況を把握し、ケア、あるいは、見守り（観察）を行っている。 | B | ・「いじめアンケート」（1月）については、3回目を計画しているので、アンケート結果の情報共有を行い、生徒支援に生かしていく。<br>・要支援生徒に関する情報共有も今後継続して行うよう計画しているので、これらの機会も活用しながら生徒の支援を行っていく。 |
| | 学習との両立を意識した計画的・効率的な部活動運営 | 自宅学習を毎日行っている生徒は54%（1年49%、2年44%、3年69%）であり、56%の生徒（保護者69%）が学習と部活動の両立を果たしていると考えている。<br>体育コース生の全国大会出場は36名（延べ65名）である。 | ・学習と部活動の両立を目指して、毎日自宅学習を行っている生徒の割合(60%以上）【学校評価アンケート】<br>・全国大会に出場した体育コース生が30名以上であり、学校生活、部活動をリードしている。【実人数】 | ・生徒が向上心と意欲をもって粘り強く取組めるよう、部活動の的確な方針や計画等を設定するとともに、学習と「両立」させた部活動運営を行う。<br>・教科担任、クラス担任が部活動顧問と協力しながら面談等の指導を継続実施する。<br>・体育コースでは、特色ある行事を継続実施し、学習面、生活面の充実を図り、学校生活、部活動のリーダーとしての自覚を促す。 | ・7月の授業評価アンケートによると、毎日自宅学習を行っている生徒の割合は全体で47%（1年43%、2年44%、3年54%）であり、学習と部活動の両立ができていると考えている生徒の割合は全体で69%（1年66%、2年68%、3年72%）であった。<br>・体育コースでは、体育コース集会（毎月）、オリエンテーション合宿（4月）、郡家東・西小学校スポーツテスト指導、コンディショニング講習会（6月）、臨海実習(7月)、集団行動（8月）、バランス改善エクササイズ（10月）等、特色のある行事を実施し、リーダーシップの育成に寄与した。また、全国大会に出場した体育コース生は16名（10月中旬時点）である。 | C | ・クラス担任と部顧問が連携して、学習や部活動に問題や悩みを抱えている生徒を把握し、個別面談等をとおして指導を行う。<br>・今後もエアロビック講習会、ウエイトトレーニング講習会（11月）等を実施し、体育コース生の育成に努めていく。 |
| 進路に挑戦 | 高い志望に挑戦する意欲を持った生徒や第1志望を目指して地道に努力し続ける生徒の育成<br><br>《探究》地元大学との積極的な連携、高い志望に挑戦<br>《総合》多様な進路に対応、第一志望を目指す<br>《体育》全国を目指す、基礎学力を確実に育成 | 進路を実現するために目標に向かって努力している生徒（10月）は、1年69%、2年63%、3年93%である。 | ・進路実現に向けて努力している生徒の割合（1年70%、2年70%、3年95%以上)【学校評価アンケート】<br>・生徒の学力向上を通した進路実現に学校をあげて取組む。 | ・各コース、各分掌及び各学年等の諸行事について、その意図・意義を生徒にしっかり理解させ、有意義なものとして確実に実施するとともに、その他の校外諸活動への自主的な参加を積極的に勧める。<br>・キャリア教育全体計画に基づき、「夢ナビ」ライブ、進路講演会、進路学習「大学生に聞く」、長期休業中補習、勉強合宿、定期考査前錬成補習、土曜自習・質問教室、土曜サテライン授業等を実施し、学力向上を通して進路実現をより確かなものにしていく。 | ・希望制行事への参加状況は次のとおり。「夢ナビ」ライブに1年185名、2年81名が参加した。夏季補習には1年102名、2年86名が参加し、1・2年それぞれ夏季にはセミナー・サテライン講座等を実施するなど生徒の意欲に応える取組みを行った。3年の補習にはⅠ期64名、Ⅱ期112名、Ⅲ・Ⅳ期各104名が参加した。また、各学年とも、キャリア設計講演会などの講演会では多様化する進路志望に対応した内容となるよう計画・実施した。 | C | ・高大接続改革に伴い、激変する入試システムに対応するために生徒向けの学習の機会を工夫していく。<br>・進路実現に向けて、基礎学力の充実を図るための通年的な取組みを検討する必要がある。 |
| | | 国公立大学志願者（10月）は、1年127名（4月126名）、2年127名（1年4月127名）、3年113名（1年4月159名）である。<br>大学入試センター試験受験者は144名（総合・探究コースの61%）であり、前年比6%減であったが、本年度は多くの生徒が5教科型で受験した。<br>国公立大学合格者数は45名 | ・国公立大合格者数の増加(60名以上)【3月末現役・過卒の合計人数】<br>・生徒の学ぶ意欲を喚起するような進路指導に努める。 | ・生徒との個別面談等をとおして、1，2年生は所期の志望の実現に向けて強く希望進路を意識させるとともに、3年生は4月時点の希望進路の実現に努める。<br>・大学・学部・学問研究の充実によって、それぞれの魅力を伝え、何を学びたいかを考えさせ、具体的な進路目標に向けて努力するように指導する。 | ・進路志望調査（4月）による国公立大学志望者は1年126名（47%）、2年130名（50%）、3年117名（44%）であり、国公立大学の志望者はあまり減少していない。専門学校志望者は医療・看護系志望者を中心に3年50名（19%）、2年46名（18%）、1年45名（17%）と各学年とも20%弱であり、幼児教育系を中心とした短大志望者は3年30名（11%）、2年11名（4%）、1年13名（5%）となっている。 | C | ・大学・学部・学問研究の一層の充実のために生徒自身が主体的に進路情報を収集・活用できる環境を充実させる。<br>・面接指導に資する有用な資料を紹介・提供する。<br>・各大学等の実際の要項をもとに入試情報を分析・研究する。 |
| 業務改善の取組 | 時間外業務の縮減 | 時間外業務の縮減と長時間勤務者の解消に向けて、改善点の洗い出しと実現に向けた手立てをおこなう。 | ・月あたりの時間外業務をH29年度比で15%削減する。<br><br>・「帰ら一DAY」や「リフレッ週」の意識化を徹底する。 | ・複数顧問体制の柔軟な運用を進める。<br>・部活動基本方針に基づいた効率的で教育的な部活動運営を意識しながら、休養日や部活動時間遵守、及び「帰ら一DAY」や「リフレッ週」の働きかけを管理職を含め、教員相互におこなう。 | ・9月分時間外勤務実績は32.4時間／人で、H29年度（30.4時間）比で6.6%の増加であった。<br>・部活動休養日の徹底や部活動時間の遵守を呼びかけ、時間外業務の縮減に取組んでいる。 | C | ・教員相互の声かけを職場全体に広げ、時間外業務の縮減に向けた取組んでいく。 |

評価基準　A：十分達成〔90%〕　B：概ね達成〔80%程度〕　C：変化の兆し〔60%程度〕　D：まだ不十分〔40%程度〕　E：目標・方策の見直し〔30%以下〕